

強い情熱と信念で 創意と工夫を持って  
最大限頑張ります

せい いち ろう  
**おおの誠一郎**



プロフィール

- ・龍ヶ崎市宮淵町に生まれる
- ・龍ヶ崎第一高等学校卒業
- ・中央大学法学部卒業
- ・龍ヶ崎市議会議員
- ・龍ヶ崎市バレーボール連盟会長
- ・有機農業研究会会長
- ・「味噌作り体験」(2000年～現在)
- ・「アグリフェスタ」(2000年～現在)
- ・「元気アップ直売所」(2005年～現在)

## 龍ヶ崎市は人口減少!

龍ヶ崎市は平成22年において80,334人をピークに減少。今や77,404人(H31.3月現在)。  
牛久市は平成22年80,403人、平成31年3月は85,089人。

### 子育て世代をターゲット

市長は減少人口を抑え、更に定住人口を増加しようと、「子育て環境日本一」を掲げ、施策を展開するが、「日本一」ばかりか、「茨城県一」にも、ほど遠い。

### 0～14歳激減

平成22年において0～4歳3,224人が、平成30年10月には2,530人となる。694人の減。  
5～9歳は806人減。10～14歳は725人減。合計2,225人の激減となる。

### 定住増加のために・・・「駅名改称」?

人口減少の中、市長が思いついたのが、駅名改称である。「佐貫駅」を「龍ヶ崎市駅」に改称することにより、「龍ヶ崎市」の知名度をアップし、龍ヶ崎に来て頂き(交流人口の増加)、やがては住んでもらう(定住人口の増加)のが駅名改称の目的。

## 「駅名改修」の次は・・・「道の駅」

駅名改称の定住人口増加の「効果」は限定的として、「道の駅」建設を推進。駅名改称同様、「認知度アップ」、「交流人口」、「定住人口」の増加が目的。

駅名改称は

費用は約4億円  
時期は2020年春  
効果は50年後を想定？

道の駅は

費用は21億円以上  
開業は2021年3月以降  
15年で改修・建替え予定

## 道の駅から・・・「牛久沼感幸地構想」へ

道の駅を3つの候補地の中から国道6号沿いの「牛久沼」京成バラ園跡地に決定。既に全国1,150駅、道の駅が存在している中で、特徴ある道の駅を求めた結果、約410haの広さがある「牛久沼」と「道の駅」を融和、結合しようと「牛久沼感幸地構想」へ。

## 「牛久沼感幸地構想」とは・・・

100年先を見すえて「牛久沼」の自然環境をつくる。緑地化への提案として、木々が生い茂り、花が植栽してある写真をイメージ写真として掲載。(100年以内)  
現在の水辺公園には牛久沼を一望できる「丘」。牛久沼周辺20km(隣接市の所有なので各市町の協力が必要)には牛久沼トレイル(サイクリング、ウォーキング)(50年以内)。道の駅を中心に、牛久市側(北側)にキャンプ場。取手市側(南側)に水上スポーツのメッカ(15年以内)。このような構想を100年かけて「牛久沼」を「観光地」ではなく「感幸地」(幸せを感じる場所)にしたいという構想。

## 100年先だから・・・

100年、200年かけて牛久沼の自然環境は現在に至っている。この自然環境をこれから先、100年かけて、どのように創っていくのかという質問には、具体的な答弁は無い。100年先だから、責任は無い。

## 4つの日本一をめざせ!

市長は「子育て環境日本一」、「市民活動日本一」、「スポーツ健幸日本一」、「防災、減災日本一」の4つの日本一を掲げている。4つの日本一は、0歳～100歳余まで、市民の全世代を対象としている。日本一を単なる「スローガン」にしないで、「実現」することにより、龍ヶ崎市そのものが「感幸地」になるのではないかと。市民の多くが、幸せを享受できる日本一に「血税」を注ぐべきではないかと思えます。